

わいわい ニュース



医療生協さいたま 安松柳瀬支部

2024年 12月発行

連絡先 運営委員 荻野 2944-5783 小畑 2944-8722 深澤 2995-4332

秋晴れのもと 健康祭りが 開催されました♪

今年も健康祭りが11月3日(日)、西協同病院で開催されました。野外メインステージでは、昨年に続き所沢中央高校吹奏楽部の力強い演奏で開幕。若者たちの素晴らしいオープニング演奏にうっとり♪沢山の拍手が送られました。職員のギターやドラム演奏、地域の方々の少林寺拳法、江戸っぽれ、コーラス等楽しい催しが続きました。

様々な出店もあり、病院内では各支部のバザーや小物販売店も賑わい、子ども縁日コーナーでは工作・ヨーヨー釣り等ちびっ子たちが挑戦。笑い声がいっぱいでした。健康相談で、ゆっくりと話を聞いてもらう事も出来ました。安松支部からは、8名の方々が参加され楽しいひと時を過ごしました。

マイナ保険証が無くても
今まで通り医療が受けられます！

10月26日(土) 政府広報 厚生労働省 各紙に掲載

政府広報には

- 1 「マイナ保険証を持っていない方」
- 2 「後期高齢者になった方」
- 3 「マイナ保険証での受診が困難な方・ご高齢・障害をお持ちの方」

1・2の方には資格確認書が申請不要で届き、
3の方には申請により確認書が届きます。
マイナ保険証がなくても資格確認書で 今まで通りの医療が受けられます。

「保険証が使えなくなるのか」「薬局でしつこくすすめられる」
「個人情報保護されるのか」「とにかく強制はやめてほしい」

マイナ保険証でのトラブルが後を絶たず、返納する方も増えています。全国保険医団体連合会も、保険証廃止は撤回すべきと訴えています。保険証と同じで「資格確認書」

☆裏面もご覧ください～い・・・ 参考になりました！
「挫折なんかしてる場合じゃないよ」

くらし サポーター ご存じですか？

10月に「くらしサポーター
ご案内」の、パンフレット
をお届けしました。

どんな事お願い出来る
の？

*クローゼットの整理
を・・・

*庭の草取りを・・・

*納屋の掃除と片づけを。

*電球を買って来て交換
を

*ゴミ出しのお手伝いを。

年末にあたり困っている

—学習会予定—

* 2月5日(水)

「認知症って
どんな病気・・・」



“挫折なんかしてる場合じゃないよ”

金子義夫(78歳) = 下安松

78歳になって大変な体験をしました。頭部にメスを入れて開き、固まった血腫を抜き取るという、考えたこともないことを医療行為で受けたことです。

発端はコロナ感染でした。7月に感染したコロナの後遺症でつらい日が続きました。そろそろ治りかけるかと思っていた矢先、今度はすさまじい物忘れ。テレビに登場する俳優さんの名前を思い出せないどころではない。生活と命にかかわる事態が次つぎと起こり、認知症かと青ざめました。

妻に勧められて西協同病院の「物忘れ外来」に駆け込んだところ、診察した吉野医師は「頭の中に血腫がたまっており、これが物忘れを誘発している」「すぐ専門病院で処置を」と、その場で所沢中央病院の脳神経外科の医師に連絡を取り、「すぐ行きなさい」と言いました。硬い表情でした。同病院に駆け付けつけると、医師はさらに検査したうえ「すぐ入院を。明日の朝手術やります」！洗面道具や寝間着を取りに家に戻ることもできませんでした。

正式な病名は「慢性硬膜下血腫」。血腫を取り出した手術はうまくいきましたが、後で看護師さんらに聞くと非常に切迫した状態だったそうです。

実をいうと、コロナの後遺症で苦しみ、物忘れが進んだときは“認知症だったら、オレの人生はもうおしまいだ”と落ち込みました。そんな時、妻に「病院にも行けない、会社を辞めざるを得ないなど、コロナなどで苦しんでいる人は、若い人を含めていっぱいいる。挫折してる場合じゃないでしょ」といわれました。さらに、すぐ横になりたがるのをみて「コロナを跳ね返すためには強い身体が必要」と、体を動かすことを進められました。

“物忘れや、疲れる原因は年のせい”と勝手に自己判断しない—その大切さを実感したことも大きかった。

西協同病院の先生の診断、病院、医師間の迅速な対応がなかったら、はたして普通の生活に戻ることができたかどうか。本当に貴重な時間を経験したと痛感しています。